

2-7 ウエペケレ「パシクル ウタサ イタク ヒ アヌ」解説

語り手：貝沢とうるしの

聞き手：萱野茂

貝澤：kotan or_ ta inaw sakno [村にイノウ (の削りかけ) をつけずに] まるっぽ [丸木] を立てたもんだ。

萱野：その kikinni [エゾウワミズザクラまたはナナカマド] で。

貝澤：kotan epunkine pa cise pisno epunkine kuni ne [村を守って、家ごとに守ってくれるように] ということ a=ye wa [言って]、入り口に ikuspe us [柱がある] 元は木戸あるから、柱 os un [の後ろへ(?)] こう ora caca [そして、おじいさんが(?)] こう eymek [して食べ物を捧げて] roski して [立てて]。

萱野：そうかい。そのキキンニ eraperoski [羽状に切り込みを入れる] しただけ？

貝澤：eraperoski [羽状に切り込みを入れる] したただけだ。

萱野：長さはどのくらい。

貝澤：これくらい。

萱野：このぐらいつちゅったら5寸 (約15センチ強) くらいだな？

貝澤：うん。何ここへにこう tawki する [ばっさり切る] べ、一回 tawki したら、あそこんどここう okari eraperoski して [まわりに羽状の切り込みを入れて] 立てたもんだんだ。

萱野：今の場合は、このウエペケレ [散文説話] は、私は一人のアイヌであった、と。家内を持ち何不自由なく生活しておった。
ある日のこと、山へ狩に行ったら、狩に行きそして、山で休んでおった

ら、山の方からカラスが一羽飛んで来て、私の休んでいる木の上に止まった。浜の方からカラスが一羽飛んで来て、私の休んでいる木の上へ止まった。そして、言うのには、「山から来たカラスよ、あなたは浜の方から来て何かそれ心配事は」……いや、山から来たカラスだなあ先に言うのは。「浜の方からあなた来て、何か心配事はありませんか」そう言ったら、そうね、別に心配事、神の国では心配は無いけれども、アイヌの方で心配な事が一つある。その心配というのは、今この木の下に座って休んでいる男の人の家のそばで、**kikinni** と **nesko** というのは、何の木。

貝澤：クルミ。

萱野：クルミだな。**kikinni** というのはナナカマドとクルミの木が生えている。そして、**nesko** の方の根が行ってるんだな。

貝澤：**nesko** の根。寝屋（ねや）の下入ってたんだ。

萱野：なる程。クルミの木の根が、今下で休んでいるアイヌの夫婦の寝部屋の下の方へ入っているの、そこの奥さんが病気になりそうだ、と。

貝澤：腹痛（はらいた）を起こしたんだと。

萱野：それが一つ心配だ、と。それから、今、この人が最初にクマ狩と言ったけれど、狩でなくて、

貝澤：**hotanu** [お見舞い] しに。

萱野：隣の村の人の所へ見舞いに行く。隣の村の所謂 **kotan kor kur** [村長]、と言うのは、酋長という言葉が適当かどうか知らないが、そのうちへ見舞いに行こうとしている所の男の人の病気の原因は、そこの奥さんが、家の中をこう箒使った。その箒使いをした、そのゴミは出さずに、

貝澤：庭（土間の意）から全然出さないで。

萱野：所謂庭（土間の意）べりにある **apa sam un kamuy** [戸のそばにいる神] という、その神様の所へ全部寄せ集めているので、神様が非常にそれを嫌って、そこの主人を病気に行っているんですよ。それさえ取り除けば、そこ

も治るし、今この下で休んでいる人の奥さんも急病から逃れるでしょうよ、と言いながら、双方へカラスが別れて行ったのを見た。

私は宙を飛ぶようにして、それを聞いてから、その見舞いに行くはずの男の所へ行って、行ったら、「どうですか」って言ったら、そこの見舞いに行ったところの人は、本当に苦しそうな息の中で、「あなたでも来てくれれば、何とか助かるんじゃないか」と考えておったんですけども、「こんな重体になってからもうどうなる事やら」と言う。もう自分は、そのカラスの神様から聞いて行ったので、大急ぎでその辺を見回すと、なる程、カラスが言ったように、戸のそばでは、ゴミの山があって、そこで神様が

貝澤：wenpurikor pe ne hawe. [悪い奴だなあ]

萱野：すっかりゴミに埋まっていると。それを取り除かせて、大掃除させて、そうしたら段々段々と元気になったし、神様にお詫びのお神酒をあげたり、お詫びのことばを言いながら、そこをして、すぐにまだ、私は村へ帰って来た。

そうすると、私の家内は、もう腹病みで七転八倒の苦しみだ、と。それも原因を聞いてきたので、その家のすぐそばであったクルミの木の根を掘り起こさせて、すっかり取り払ったので、私の方の家内も日に日に良くなり、そして見舞いに行った方の男の人もすっかり病気が良くなり、

貝澤：そこからこんど ikor [宝物] もらったんだと。

萱野：ああ、なる程。病気も良くなった、と。私はカラスのことばを聞くことが出来たお陰で、このように家内も安全、そして隣村のニシパも死なずに終わりました。と一人の男が物語ったというウエペケレ [散文説話] ですね。これはウエペケレ [散文説話] でも、何と言うんだ？

貝澤：aynu uepeker [人間の散文説話]

萱野：aynu uepeker [人間の散文説話] で、paskur itak hi a=nu. [カラスが言うのを聞いた]

貝澤：paskur utasa itak hi a=nu. [カラスが言い合うのを聞いた]

萱野：paskur utasa itak h_i a=nu. [カラスが言い合うのを聞いた] と、こう

いうあれだな。

貝澤：うん。paskur utasa itak [カラスが言い合う]

萱野：paskur utasa itak [カラスが言い合った] それから。

貝澤：oro tunasno ikaopas y_akun oro wen しない [大急ぎで行けば、大変なことにはならない] って、paskur [カラス] 言ったって言うんだ。